

文部科学大臣賞の受賞にあたって

本間 よし乃

私にとって今回の文部科学大臣賞受賞は、今まで積み重ねてきた第3カ国語習得のための努力の証明であり、これからの言語学習に向けてさらなる励みとなるものでした。またこのことをきっかけに、これからスペイン語を通じて得られる人との出会いや発見に期待を寄せ、なぜ私はスペイン語を学んでいるのか、なぜ私はスペイン語がこんなにまで好きなのかを再確認することができました。

私が初めてスペイン語と出会ったのは中学3年生の夏、英語の学習のためにアメリカのカリフォルニアに語学留学をしていた時のことでした。当初、「アメリカに行けば毎日英語に浸れる」と意気込んでいた私にとって、留学先のバスの中の光景は私の予想に大きく反するものでした。というのも、バスの中では英語以外のよくわからない言葉がいつも飛び交っていたからです。それがスペイン語でした。このことをきっかけに、私の中の「英語以外の言葉も学びたい」という思いは強まり、帰国後も英語と並行してスペイン語の学習に励むようになりました。

始めた当初は、スペイン語の活用の多さや時制の複雑さに戸惑いながらも、スペイン語検定5級、6級の本をベースに独学で学んでいきました。スペイン語検定3級を受ける頃には El País などの新聞にも頻繁に触れるように心がけ、それがいつしか日本や英語圏以外の視点から見た事実の習得方法となっていました。またスペイン語を使ってお菓子作りに挑戦するなど趣味とスペイン語をつなげ合わせることもしました。勿論私のレベルではまだまだよくわからないことも沢山ありますが、勉強すればするほど広がる世界に喜びを感じ、これからもスペイン語学習を続けていこうと思います。

日本においてはまだメジャーとは言えないスペイン語。ですが私にとってスペイン語はすでに私の視野を格段に広げ、今日のグローバル社会においてより広く活躍するための基盤作りとなりました。私はまだ一度もイベロアメリカの国を訪れたことはありませんが、きっとこれから、スペイン語を使って色々な国の人と交流し、仕事仲間としても友達としても良い関係を築くことができるでしょう。日本でトリリンガルであることはまだまだ珍しいことですが、私はもっと多くの人々がスペイン語や他の言語に親しみ、その過程を通じて新たな世界に踏み入れていくことを望んでいます。